

平成22年度第2回定例会

日 時： 平成23年1月19日（水）午前10時～

場 所： 本館 講座室

---

(事務局) 図書館協議会を開催する。

(図書館長、教育部長挨拶)

(事務局職員挨拶)

(各委員の紹介、挨拶)

(会長、副会長決定)

(事務局) (事務局より、現状と課題を資料に沿って説明)

- ・唐木田図書館開館、運営について
- ・今後の図書館について
- ・公文書管理について
- ・多摩市立図書館の運営方針について
- ・多摩市子どもの読書推進計画について

社会教育及び生涯学習に関する委員会組織のあり方について、社会教育委員の会議で拡大の会議を開き、今後の多摩市の社会教育、生涯学習をどう考えるか議論している。方向としては、部局を超えた生涯学習を推進する審議会が必要という方向でまとまりそうである。社会教育委員の会議、公民館運営審議会、図書館協議会を統合して新たな審議会を設置し、ただし個別審議が必要な場合は別に調整となっている。この「別に調整」の部分は、具体的にはなっていない。文化財保護審議会はこのまま残る形になる。

(会長) 全体として、規模縮小があったとしても図書館協議会のような会を設定しておくべきである。教育委員会と市長部局の分けをはっきりし、図書館として主張すべきものは全体の会議に委員の意見を持って上げられる形は作っておくべきである。

(委員) 図書館協議会を統合する目的は何か。

(事務局) 多摩市全体としての生涯学習の推進、ということである。

(委員) 図書館協議会で協議している図書館についてしっかり考える場が少なくなってしまうのではないか。図書館職員はそれでいいのかどうか。まとまったら、範囲が広く短い時間の年何回かの会議で突っ込んだ話し合いができるのかどうか。委員に提供する材料がなければ、形式的な会議になりがちではないか。

(副会長) 図書館法に基づく図書館協議会がなくなることになる。統合となると、そこで議論される図書館については、全体の一部になってしまう。

図書館法の規定にある図書館協議会を残さないということは説得力に欠けると思う。

(会長) 残さないということではなく、存続はさせるが規模は縮小するような形を取ろうとしている。

(委員) 図書館協議会が職員と一緒に上の方たちに意見を提案していく場ととらえた。図書館はもっと高い位置付けにして活用しなければならないのではないか。

(委員) 図書館職員はこの動向について、どのように考えているのか。

(事務局) 図書館の可能性を広い場で広めたいということと、図書館について考える場もほしいということである。どの審議会等でも学校の校長、副校長が代表で出ているが、各先生方の負担も大きい。

(委員) 他の所管と一緒にやってやらなければならない工夫については、統合された会というのは有益だと思う。図書館について話し合う場は何かの形は必要である。

(副会長) 学校教育関係者の選出は図書館法ではそのように示してあるだけで、必ずしも学校長や副校長とは規定していない。限定せず、柔軟に対応している。選び方の問題であり、本質的な図書館協議会の性格の問題ではない。

(委員) 学校教育関係者の中に学校図書館司書がいるが、その関わり方はいかがか。

(事務局) 学校図書館司書の身分は非常勤一般職である。子ども読書活動推進計画の中では、欠かすことのできない方であり、ピンポイントで出席いただくようなことができるかどうか、検討していきたい。

(委員) 図書館協議会は大事なもので、図書館の専門性を守って図書館を発展させていくためには、必要なものだと思う。生涯学習のいろいろな分野での意見交換は必要なことだが、図書館のことを意見が言える場はもっと大事である。学校図書館司書が意見が言える場をつくっていく道筋を見つけていくことは必要であると痛感している。

(事務局) 仮に、図書館協議会を残した形でそこから代表を選出する方法と、統合した審議会に図書館部会という形を持つ方法、部会という制度ができない場合は、そこから専門の特命機関として図書館の課題解決のための組織を立ち上げる方法が考えられる。そのことについてはどう思うか。

(副会長) 現行の図書館法にのっとった図書館協議会が否定されなければならないのが、理解できていない。図書館法に基づく図書館協議会を存続させていただきたい。

(会長) 図書館は図書館を必要とする人のためにあるのだが、条件が多種多様でここまで図書館がやらなくてはならないのかといった市民のニーズ

もあり、わがままな市民もでてくる。それをどのように解消するか、難しい時代の図書館運営である。

(事務局) 他のことについても、意見はあるか。

当日配布の資料の多摩市立図書館の基本方針・運営方針(案)では、「持続可能な社会を目指し」をいれるか入れないか、図書館は何をしたいか見えないという議論があった。

(委員) ぜひ入れてほしい。そのように担う方向にいてほしい。持続可能な社会というのはESDの考え方で、あやふやになっている図書館の目標がはっきりすると思う。「生きる力」について、表現としては「ともに生きる力」とか「ともに支える」といったことが表現できると、ひとりの力だけではなく相手が合って生きられるということの意味がプラスされる。

(委員) そういった意味を含んだ「生きる力」だと読んでいて思ったが、ひとりだけで生きていくのではないと、補足しておいた方がいいと思う。

(副会長) これはいつ頃決めるのか。

(事務局) 1月の教育委員会で提案して、そこでの意見を踏まえ、2月21日の教育委員会で確定したい。

(副会長) 今日、ここで示されたが次回は次年度以降となるので、間に合わないということか。協議会の意見が反映される場はないのか。

(事務局) 協議会として集まって意見を聞く場は設けられないが、1月31日までにいただけたら、このような意見が出たと伝えていきたい。

(副会長) 図書館協議会の今後については、3つの選択肢があるという段階、ということか。

(事務局) あるとしたらそのような方針かというところである。

(副会長) 次回には結論が出ていたということにならないようにしていただきたい。

(委員) 唐木田図書館の業務委託についての評価、検証は大変である。半年経ったら利用者アンケートを取り、1年たったら1年まとめたものを評価をする、もう一度アンケートを2回くらい取り市民の評価をもらい、図書館としてどうするかまとめなくてはならないと思う。

(会長) これで終了する。